

## サステナビリティレポート 2006 の概要

## 1. 編集のポイント

- ・情報開示資料としての質の向上と、読者の皆さまとの双方向性を高めるため、従来から参考にしている「GRIガイドライン」に加え、持続可能性報告の保証基準である「AA1000の基本原則」を新たに採用して作成プロセスを見直しました。
- ・昨年度のレポートに対して皆さまからいただいたご意見を、該当するページの右上にご紹介し、本文中でお応えするなど、レポート自体に「コミュニケーションの場」としての機能を持たせました。

## 2. 構成

## (1) トップコミットメント (4~5頁)

「東京電力グループの社会的責任」に対する考え方と具体的な取り組みの概要を、「トップコミットメント」(社長のメッセージ)として掲載しております。

## (2) 特集 (6~11頁)

社会的責任に関する具体的な取り組み事例を、当社グループの中期経営方針「経営ビジョン2010」で掲げた3つの経営指針(「社会の信頼を得る」、「競争を勝ち抜く」、「人と技術を育てる」)を切り口として紹介しております。

## (3) 経営編 (14~19頁)

「経営ビジョン2010」の下で展開する社会的責任(CSR)について、その基本となる考え方を取りまとめた「東京電力グループのCSR方針」を紹介するなど、当社グループのCSRの取り組みについて体系的に整理いたしました。

## (4) 環境編 (24~47頁)

地球温暖化防止をはじめとする当社の環境への取り組みを掲載いたしました。

## (5) 社会編 (48~63頁)

防災対策や地域社会との協働、働きやすい職場作りの取り組みなどについてご紹介するとともに、情報公開の取り組みについても掲載いたしました。

## (6) 原子力編 (64~71頁)

原子力編については、昨年度、読者の方々から高い評価をいただきました。今年度は、立地地域との共生や原子燃料サイクルなどについてご紹介しております。

## (7) 資料編 (72~75頁)

報告内容の信頼性向上を目的として、「AA1000の基本原則」の視点から、「評価できる点」および「課題と思われる点」を、監査法人による「所見」として掲載いたしました。

## 3. その他

製本にあたっては、尾瀬に敷設している木道を紙パルプの原材料としてリサイクルした「尾瀬の木道エコペーパー」を採用し、尾瀬の自然環境保護と資源循環の両立を目指しました。

以上